

2026 年 9 月 9 日

台湾・8月輸出額は過去最高を更新(Asia Weekly)

～半導体のみならず、幅広い分野で輸出が拡大する動きを確認～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/7(月)	(タイ)8月消費者物価(前年比)	+2.53%	+2.31%	+1.95%
9/8(火)	(韓国)4-6月実質 GDP(前年比・改定値)	+3.7%	+3.7%	+3.7%※
	(中国)8月輸出(前年比)	+25.0%	+25.0%	+23.9%
	8月輸入(前年比)	+28.2%	+30.0%	+27.5%
	(台湾)8月消費者物価(前年比)	+2.04%	+2.30%	+2.54%
9/9(水)	(中国)8月消費者物価(前年比)	+0.8%	+0.8%	+0.5%
	8月生産者物価(前年比)	+3.8%	+3.6%	+3.5%
	(マレーシア)7月鉱工業生産(前年比)	+4.7%	+5.7%	+6.5%
	(台湾)8月輸出(前年比)	+41.0%	+35.3%	+32.9%
	8月輸入(前年比)	+44.3%	+40.0%	+37.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

[台湾]～半導体のみならず、幅広い分野で輸出が拡大し、8月の輸出額は単月ベースで過去最高に～

8日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+2.04%となり、前月(同+2.54%)から鈍化して3ヵ月ぶりの低い伸びとなった。前月比も▲0.01%と前月(同+0.33%)から5ヵ月ぶりの下落に転じた。生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇ペースが鈍化する一方、原油価格の再上昇を反映してエネルギー価格は上昇しており、生活必需品の物価はまちまちの動きをみせている。生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.30%となり、前月(同+2.36%)から伸びが鈍化した。前月比も▲0.16%と前月(同+0.30%)から5ヵ月ぶりの下落に転じている。エネルギー価格の上昇を受けて輸送コストに押し上げ圧力がかかる一方、金融市場における台湾ドル安の一股を反映して輸入物価に下押し圧力がかかるなか、幅広い財で価格が下落する動きがみられる。さらに、上昇基調が続いてきたサービス物価も下落に転じている。世界的なAI(人工知能)・半導体関連需要の旺盛さが外需や雇用環境を下支えしているものの、サービス物価の動きからは、内需面でのインフレ圧力に一服感が出ている可能性がうかがえる。

9日に発表された8月の輸出額は前年同月比+41.0%となり、前月(同+32.9%)から伸びが加速した。前月比も+10.6%と前月(同▲1.9%)から3ヵ月ぶりの拡大に転じており、持ち直しの動

きを強めるとともに、単月ベースの輸出額は過去最高となった。財別では、主力輸出品である半導体など電子部品関連や電気機械関連が堅調な動きをみせるとともに、金属関連やプラスチック関連など素材・部材の輸出も底堅く推移するなど、幅広い財で輸出が拡大している。国・地域別では、欧州向けが減少するなど頭打ちの動きがみられるものの、最大の輸出先である中国本土向けが旺盛なほか、日本向けや ASEAN（東南アジア諸国連合）などアジア新興国向けも堅調に推移し、米国向けにも底堅さがうかがえる。一方、輸入額は前年同月比+44.3%となり、前月（同+37.4%）から伸びが加速した。前月比も+6.3%と前月（同▲10.3%）から2ヵ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向を維持するなど、持ち直しの動きが続いている。原油をはじめとする商品市況の上昇を反映して、鉱物資源関連や化学製品関連の輸入額が押し上げられるとともに、輸出の堅調さを追い風に、機械製品関連や金属関連、プラスチック関連など素材・部材に対する需要が拡大する動きもみられる。その結果、貿易収支は+222.98 億ドルの黒字となり、前月（+171.72 億ドルの黒字）から黒字幅が拡大し、単月ベースの黒字額は過去最高となった。

図1 TW インフレ率の推移

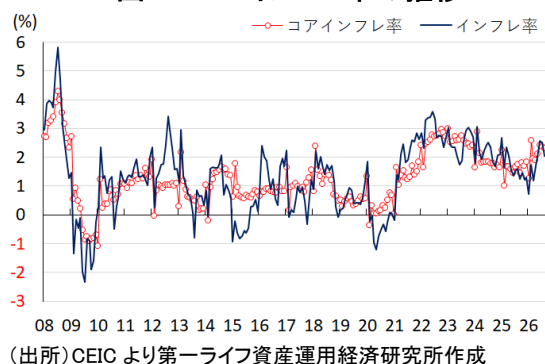
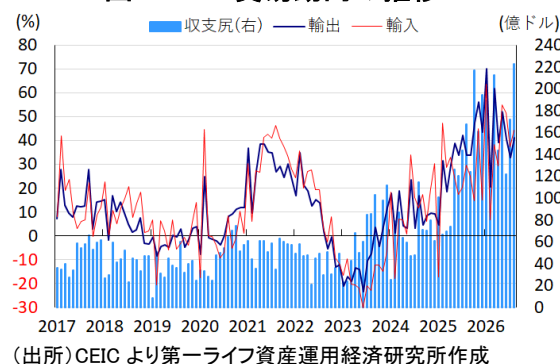


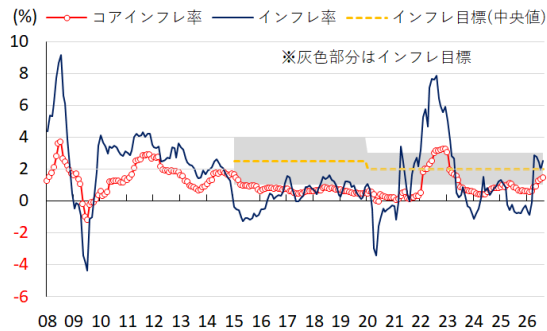
図2 TW 貿易動向の推移



[タイ]～原油高の再燃、食料インフレ、輸入インフレも重なり、財価格を中心にインフレ圧力が強まる～

7日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+2.53%となり、前月（同+1.95%）から加速して3ヵ月ぶりの高い伸びとなった。前月比も+0.56%と前月（同▲0.73%）から3ヵ月ぶりの上昇に転じた。原油価格の再上昇を反映してエネルギー価格が上昇するとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まったことが影響している。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.44%と前月（同+1.34%）から伸びが加速した。3ヵ月連続で中銀の目標レンジ（2±1%）内で推移しているものの、2023年5月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.20%と前月（同+0.08%）から上昇ペースが加速している。エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが上昇するとともに、金融市場におけるバツ安による輸入物価の押し上げも重なり、幅広い財で価格に押し上げ圧力がかかっている。一方、サービス物価は上値の重い展開が続いており、足元のインフレ圧力の強まりは、主としてコスト上昇など供給サイドに起因している様子がうかがえる。

図3 TH インフレ率の推移

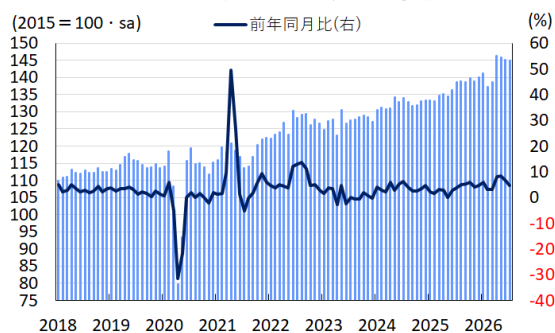


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～鉱業部門の生産は調整する一方、外需関連を中心に製造業の生産は堅調な動きが続く～

9日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+4.7%となり、前月（同+6.5%）から伸びが鈍化した。前月比は▲0.14%と前月（同▲0.50%）から3ヵ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ち感を強めている。分野別の動きをみると、原油をはじめとする商品市況の上昇一服を受けて鉱業部門の生産は大幅に減少するとともに、経済活動の動向に連動する電力部門の生産も減少に転じている。一方、世界的なA I（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映した外需の堅調さを追い風に、製造業の生産は拡大が続いている。半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連、自動車など輸送用機械関連で堅調な動きがみられるほか、石油化学関連など外需関連分野でも底堅い動きをみせている。

図4 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上